

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成29年10月30日

岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策の展開や教育活動の改善に役立てるため、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。

1 調査の目的（文部科学省による調査）

- ① 国の義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

◎【教科に関する調査】（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
-------------------	-------------------

◎生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に関する調査	学校に関する調査
------------	----------

3 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）

■教科に関する調査■

- 小学校では、国語A・B、算数A・Bともに県・全国平均を上回り、特に国語Bにおいて、力を発揮することができ、各校の授業改善の成果が見える結果となっています。
- 中学校では、国語A・B、数学A・Bともにほぼ県平均と同程度であり、各校の授業改善の成果や改善の兆しが見える結果となっています。

■質問紙調査■

- 小学校では、「自分によいところがある」「いじめはどんな理由があってもいけない」「国・算の勉強は大切。国・算の授業の内容はよく分かる」の割合が高い。「自尊意識」、「規範意識」、「学習に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることがうかがえます。
- 中学校では、「自分によいところがある」「国・数の勉強は大切。数学ができるようになりたい」「国・数で学習したことは、社会に出た時に役立つと思う」の割合が高い。「自尊意識」、「学習に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることがうかがえます。

4 今後の課題

- ◇ 目的や意図に応じ、自分の意見や考えをまとめ、それが伝わるように話したり、感想文・説明文・意見文などの文章として記述したりする力を更に伸ばしたい。（小学校、中学校）
- ◇ 家庭学習の課題（宿題）に加え、自分で計画して行う学習の時間を増やしたい。（中学校）
- ◇ 「読書は好き」と答えながら、年々読書に割く時間の減少が見られること。（小学校、中学校）

分析結果をもとに、今後の学力向上策、各校の教育活動の改善に活かしてまいります。

伸びる岡谷の子

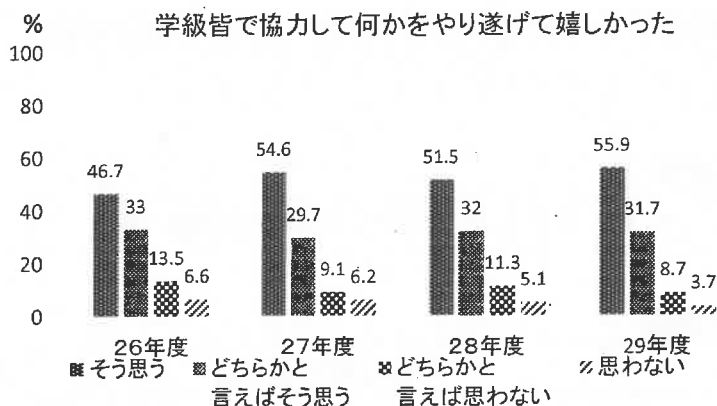
家庭・学校生活の安定が、心の安定につながり伸びる子どもの源になります。

児童・生徒質問紙から、家庭生活についてみると、「起床・就寝時刻がほぼ一定」であり、「ほとんどの子が朝食を食べ登校」しており、安定した家庭生活をうかがうことができます。

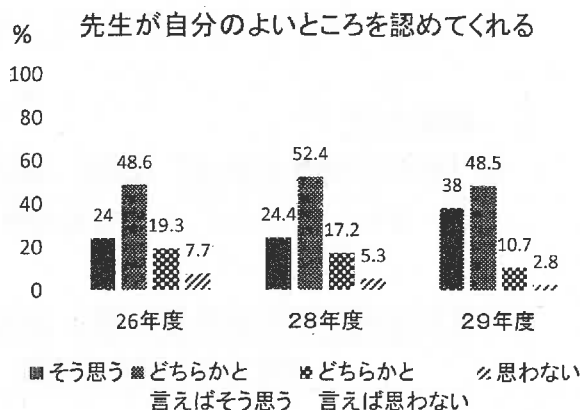
次に、学校生活について、「学級みんなで協力して、何かをやりとげてうれしかった経験」「先生が自分のよいところを認めてくれる」を4年間の推移のグラフからみると、年々「そう思う・どちらかといえばそう思う」が増加傾向にあり、みんなで協力するよさを味わい自分のよさが認められることをはげみに学校生活を送れていることがうかがえます。また、学校の規則や友達との約束を守り、人が困っているときは進んで助け、人の役にたつ人間になりたいと思って生活している児童・生徒の割合も多くなっています。

(※小中同傾向のため、グラフは中学校のものを掲載。右グラフ27年度は調査なし)

学級皆で協力して何かをやり遂げて嬉しかった



先生が自分のよいところを認めてくれる



これが学力向上のポイント

- ① 授業の内容と結び付けた家庭学習や自分で計画し取り組む家庭学習をすすめ、目的意識をもって取り組む家庭学習になるよう工夫する。
- ② 推薦する本の紹介をするなどし、様々なジャンルの読み物に触れたり、本に親しむ機会を増やしたりして、読書の楽しさを感じられる工夫をする。
- ③ 「生活科・総合的な学習の時間」を始め様々な場面で、体験的探求的な活動を大切に、自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどし、日常生活で活用が図られるような学習活動に取り組む。また、「岡谷スタンダードカリキュラム」を活用し地域に根ざした学習を進め、ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の充実を図る。
- ④ 中学校区や教科会ごとの小中接続・連携を進め、学習の土台となる学級づくりや授業改善を図る。特に、課題解決的な授業、子どもがかかわり合って発言する授業、考えたり書いたりする時間を確保した授業などをさらに進め、自ら考え、自分で調べ、自分の言葉で発表する力の向上に努める。
- ⑤ 教員の授業力アップに向けては、
 - ・個々の教員が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る等改善への意識を高め、互いの授業を公開し合って授業力アップに努める。
 - ・校長会、教頭会、市学力向上推進委員会等が中心となり、定期的に「現状と課題」の分析を丁寧に行い、授業改善に向け取り組む。
 - ・明日の授業に生き子どもに還る教職員研修会や他校他県研修、各種授業研究会の更なる充実を図る。

学力と心の成長は、車の両輪